

雖、就中後天的たる境遇交友を始めとし其幼兒教育の周到ならざりし點にあり。他の惡少年と交はり、不知不識の間に悪感化を受けたる者あり。此の如きに、莫大の費を徒浪し其結果の不良を見るよりは是等は適度の範圍に止め、進んで如上の保育所を各所に増設して、フレーベル主義に従ひ、下層社會の幼兒に善良なる保育を受けしむる事に努むるは、現下社會の要求にして、將又、大都市の當然設くべき事業の一たることを信す。吾人は之れが大都市各地に先帝紀念事業として増設せられんことを絶叫し希望する次第なり。

いんですから、又ピヨーンとお馬から落ちました。蟻の小さい小さい眼玉は夢を見ました。向うーのお山に兎さんと龜さんと居りました。狸は龜さんに打たれて痛いーーと泣いたら、兎さんのお母さんが「どうしたの」と聞きました——』

此の次に坊やの云つた事は、全然右の話とは違つた系統のものであつた。話から夢になり、夢の中の話から又更に話が發展して、之れから之れへと思想が疾走して行くので、記者の生活に慣れなゝ且つ不用意の父さんは、坊やが獨り言を終つた時までの全體の筋を捕へて置く事は出来なかつた。

同一系統に屬する材料を、記憶の働きで締め付けて前後の繋まりを保たせながら、一つのお話を自分で作り出して行くまでには、今後どの位の時を要するであらうかなど考へて、父さんはのん氣に坊やのお話を聞いて居る。

丁度福音の絶好の善良なる教育を受けしむる事に  
努むるは、現下社會の要求にして、將又、大都市  
の當然設くべき事業の一たることを信す。吾人は  
之れが大都市各地に先帝紀念事業として増設せら  
れんことを絶叫し希望する次第なり。

○坊や創作

若き父

ゆるい春の疲れを味はいながら、父さんは坊をかへて、まだ伸び／＼として床中に身を横へて居る。今朝は雨降りの日曜である。雨のせいか、一昨日も昨日も来て歌つてくれた鶯は未だ来ない。もう春雨らしくんと／＼と降る細い雨は、油のやうに軟かい土に滲み通つて居るらしい。

坊やは今月の末で満三年と三ヶ月になる。例によつて早くから眼を醒まして、お父さんにお話をして頂戴とせがむ。今朝はお父

十二月二十三日朝

去月神田區に於ける大火には本會々員中類焼近  
き人が聞いて上りますから、坊ちゃんがお話をして頂戴と頼んだ  
ら、熱誠をこめて何かしきりに獨り言を云つて居る間に、獨り手  
火の災に罹かれし方も尠からず。茲に誌上を以て

去月神田區に於ける大火には本會各員中類焼遁  
火の災に罹かれし方も尠からず。茲に誌上を以て  
御見舞申上げます。

《 小さい蟻がヒミトンとお馬に乗りました。お馬はハカハカセんせんパカパカと走りました。蟻は小さ